

窓 開けて

ごあいさつ

理事長 染野 和成

元号が令和になって初めての会報をお届けします。ようやくこの新しい元号にも耳慣れてきた今日この頃、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

日頃より皆様には当法人に対するご協力、ご指導をいただき誠にありがとうございます。

この1年間も当法人は当事者に対する直接的な活動は少なくなつた感がありますが、以前にも増して各自が忙しく動き回つたように思います。活動内容については本紙をお読みい



活きる事務所にて

ただければと思いますが、一昨年から復活した「バスハイク」が私には記憶に残ります。昨年のバスハイクは行き場所と集合時間、帰りの集合時間のほかは何も決めずに行き先は1ヶ所でしたが、急きょもう1ヶ所が追加され、出かけた先で素敵な時間を過ごすことができました。

また、行政や地域に対する貢献活動もおろそかにはできません。当法人の結成から早いもので15年目、たくさんの方々と機関から会議・委員会・講演会からお誘いをいただき、地元はもとより要請があれば県外にまで足を延ばしました。

移送サービス事業をはじめとする、私たちの活動は多くのボランティアの方々を支えられているといっても過言ではありません。しかしながらボランティアの方々も年々年齢を重ねて行きます。当法人のボランティアさんも高齢化率が高くなりました。

市内のボランティアグループを見渡せば、各グループとも年齢平均は高く、私が知っている限り3グループが解散に追い込まれました。

最後になりましたが、この1年間も当法人へのご協力をお願いしてご挨拶に代えさせていただきます。

ご存知ですか？

健康保険で在宅マッサージが受けられます！

お問い合わせ、ご相談などお気軽にご連絡ください。

オリエンタル治療院

〒301-0041 茨城県龍ヶ崎市若柴町 2183-9 TEL 0297-65-0985 FAX 0297-65-3323

【いきいき茨城ゆめ卓球バレー全国交流大会】

2019年10月 6日

「いきいき茨城ゆめ大会」（全国障害者スポーツ大会）のオープン競技として卓球バレー全国交流大会が取手市グリーンスポーツセンターで開催されました。

前日は1日ばかりで協会役員20人くらいが中心になって会場設営を行いました。卓球台の位置や式典の列など採寸しながらなので、とても時間がかかります。でも、会場リーダーの方が詳しく内容が書かれた大きな図面を作ってきてくれたので、わかりやすく段取りよく進めることができました。

さて、本番当日、ボランティアは朝8時に集合。昨日、屋内で準備できなかったところ、そして屋外の準備を大急ぎでやりました。それから、ボランティアへ来場者の受け入れや開会式の段取りなどの綿密な打ち合わせをしました。その後、選手代表にルールや試合の流れなどの打ち合わせをやりました。

いよいよ開会式です。プラカードを持った学生さんを先頭に選手入場です。全国から42チーム431人の選手が並んだ景色は圧巻でした。日本連盟会長、茨城県卓球バレー協会会長、取手市長など来賓の方々からご挨拶をいただいた後、NPO法人活きるの勝山君とYMOの大久保さんが選手宣誓をしました。

予定より10分遅れで試合開始のホイッスルが鳴りました。チャレンジクラス20チーム（競技を中心とした全国レベル）いばラッキークラス14チーム（親睦を中心とした地方レベル）体験クラス8チーム（障害の有無にかかわらず誰でも参加）の3クラスが11台の卓球台に分かれて予選リーグが始まりました。なんと、チーム活きるは予選リーグを1位通過したのです。体験クラス優勝という文字が頭をよぎりました。

昼休みは和太鼓演奏とダンスのアトラクションが披露されました。

午後は各クラスで決勝トーナメントです。ここからは優勝に向けて熱戦が始まりました。特にチャレンジクラスの試合はすごい迫力です。チーム活きるは午前中に勝ったチームに負けました。3位決定戦も接戦だったけど残念ながら惜敗で4位。優勝候補だったれっつ・ごー茨城も惜敗。そして、勝山君のとりで新利根ハムスターズは予選敗退と地元大会で絶対優勝を誓って、いっぱい練習したのに残念な結果になってしまいました。

すべての試合を消化して閉会式と表彰式に入りました。表彰式では惜しみない拍手で上位の方たちを讃えました。表彰式を終え、遠くから参加されたチームから退出し、これも多くの拍手で送りだしました。

片付けも、この日はたくさんのボランティアが居たのでアッという間に片付けました。本当に多くの方たちのご協力で初めての大会運営なのに大成功の大会になったのでした。参加人数は全スポーツ史上最高だったそうです。

1週間後に開催されるはずだった全国障害者スポーツ大会の他競技は台風の影響で全種目中止となってしまいました。卓球バレーも準備に3年間苦労しましたが、他競技も同様、またはそれ以上の大変な思いをして待ち望んだ大会でしたが、中止はどんなに悔しい思いをされたか察するに余りあります。



●障害者(児)支援ボランティア講座

社会福祉協議会の主催で毎年開催されているボランティア講座の講師として協力しています。2月12日の講座では宮脇は肢体不自由者の支援についてお話ししました。

まず、宮脇がボランティア、障害の世界に入ったきっかけをお話ししました。妻が障害者になったことで、いろんな不便を多くの方の支援で生活が成り立ったことへの恩返しのためでした。そして、ボランティアとしての基本的な心構えをお話ししました。そして、理事長の染野とNPO法人を設立し、本格的な支援ボランティア活動を始めたのです。



障害者の支援の大事なところは、必ず当事者の状況に応じた自立を考えた支援をすることです。できることは自分でやってもらい、残存能力を伸ばして出来ることを増やすお手伝いも大事なことです。そして、過度の優しさやおしつけの介助は差別につながることもわかってもらいました。とにかく、当事者と話し合っ、能動的な人生を送ってもらうお手伝いすることがもっとも重要なことです。



福祉有償運送事業（移動サービス）

今年度も4名のボランティアさんが加わり、定員としている20名に達しました。長年活躍していただいたボランティアさんが2名リタイヤされましたが、おかげさまで十分な補充ができました。ただ新人さんはベテランさんのように活動できるようになるには少し時間がかかります。

利用者登録数は320名と相変わらず多くの方に利用していただいています。我々ボランティアはこれらの移動困難な方の外出を支援することで、社会貢献の機会を作っています。昨年の1年間の実績は右表の通りです。

運行状況報告書

対象月	実利用者数 (人)	実運転者数 (人)	延べ送迎回数 (回)	送迎料金(円)
平成31年1月	170	18	555	562,200
2月	174	18	630	631,800
3月	145	18	455	413,900
4月	170	18	714	704,600
令和元年5月	173	18	669	693,500
6月	182	18	784	776,300
7月	185	18	815	796,700
8月	187	18	821	784,100
9月	185	18	777	770,100
10月	179	16	813	741,400
11月	178	17	694	713,200
12月	285	20	747	708,900
合計			8474	8,296,700



電車でGO!

谷中銀座

2019年 6月 5日

電車でGOはNPO法人活きるの前身の地域に活きたい障害者の会から続いているイベントです。20年近いかも。

令和元年の電車でGOは谷中銀座散策に決めました。移動時間が短いので時間に余裕があるだろうということ。

いつも通りに取手駅に9時集合。最寄り駅の日暮里についたのが10時ころかな？日暮里駅は事前調査ではエレベーターが使えないということでしたが問題はなく移動できました。

全く土地感がないので、案内地図をもらって、地図を片手に目的の谷中銀座に向かいました。田舎もんです！しばらく歩くとネットで見た夕焼けだんだんの階段がありました。当然車いすでは降りられないので、その脇道の急坂を降りて、夕焼けだんだんの階段の下へ行き早速記念写真！

昼食にはかなり早いので、のんびりのんびりと商店街を散策しました。面白い店を見つけては覗くのですが、車いすが入れる店は殆どありません。かなり、のんびり歩いたのですがあっという間に突き当り。全長170mしかないのです。

まだ、11時前・・・何度も行ったり来たりしましたが、飽きません。酒屋でビールを立呑みしたり、メンチカツを頬張ったり、有名店のソフトクリームを堪能しました。

そろそろ、お腹が空いてきたので食べるところを探します。かなり歩き回ったけど、この古い街にはバリアフリーで車椅子の人が5人（総勢12人）も入れる店は皆無です。地元の人に聞いたら、そこのカレー屋さんが入り口を入れたら中は広いよ・・・って教えてもらって行ったところ、なんとか店内に入れました。中は広く、好きなテーブルにみんな落ち着きました。インド人のご夫婦？がやられてるお店で、お二人ともとても親切に対応してくれました。嬉しかった！



それぞれ、本場の料理を堪能し、お腹いっぱい！！お店の方に感謝を伝えて店を出ました。まだ1時過ぎ。理事長が岡倉天心の記念公園があるから行ってみようとの提案で行きました。かなり狭い公園で岡倉天心の像が祀られた小さな六角堂がありました。ここでは日陰でみんなでおしゃべり。その後、都会の象徴の喫茶店ルノアールに行きましたが段差が大きく入れず、早々に取手に帰り、ボックスヒル1階のマッチマーケットでお茶をしながら、またおしゃべり。

普段、時間に追われる障害者がこんな時間を過ごせるのは貴重です。改めて、電車でGOの役割を感じた今回のイベントでした。

秋のライブコンサート

2019年11月10日

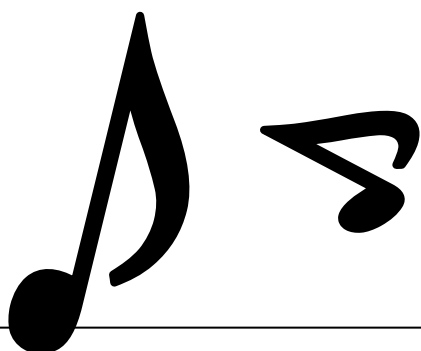


NPO法人活きるのメンバーや一般の人に無料で生の音楽を聴いていただくイベントです。

今回はずっと前から、聴きたいと切望していたイベントを取手で開催することが実現したのです。それはうたうたいりりィさんと絵描きの小林由季さんのコラボイベントです。りりィさんの歌にあわせて、絵本も出版されている由季さんが可愛い絵を描いてくれます。開演時間になると続々とお客さんが見えました。期待していた子供たちは7人。少ない〜。親と一緒にないと来れないのはハードルだったでしょうか・・・約30人のお客さんです。NPO法人活きるの麻美ちゃんの司会でスタートしました。理事長のあいさつの後、いよいよお二人の登場です！

早速、わくわくりんどんのテーマ曲でご挨拶。それから、カエルのマスコットや絵本の読み聞かせなどにちなんだ歌を聞かせてもらいました。絵描き歌でカエルの絵をお客さんに書いてもらい、子供たちも挑戦。みんなとても上手にかけていました。子供たちへみそ汁の具は何がいいですかという質問から由季さんが具の絵を描き、りりィさんが今一番力を入れている「みそ汁の歌」を歌ってくれました。

楽しい時間はあっという間に過ぎるものです。最後の歌は新曲の「おへそ」です。しっとりとうたってくれました。今回のコンサートはNPO法人活きるでは初めての子供向けの企画だったので子供の施設巡りをしましたが、NPO法人活きるのことや毎年のコンサートを周知されていないためか子供さんの来場が少なく、ちょっと残念でした。しかし、来てくれた子供たちにとって、とても楽しくて意味のある時間になったと思っています。再度、同様の企画の時は作戦を考えます。



●避難所開設訓練

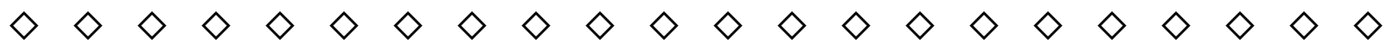
2019年12月15日

今日の訓練には避難所に関する課、安全安心対策課を筆頭に障害福祉課、高齢福祉課、社会福祉課、健康づくり推進課、教育委員会、社協など40名ほど、自主防災会から50人ほどが参加しました。

その前で障害者への対応の仕方をレクチャーしました。目的は一般避難所に障害者が来た時の対応を理解してもらうことです。



今回、協力してくれた当事者はNPO法人活きるから3名、知的の方1名、視力障害者が3名でした。それぞれの当事者が対応の仕方や注意事項を話し、実際に参加者に介助体験をしてもらいました。みんな、すごく真剣に聞いてくれたし、大きな刺激になったと思うし、かなり困難なことだということも理解してもらえたと思います。



小堀の渡し

2020年2月27日

新聞でも報じられましたが取手名物の小堀の渡しが30年ぶりに新船が就航します。

そこで市の担当課から車いすの乗船について意見が欲しいということで、今日、理事長の染野と宮脇満理子が検証乗船し意見させていただきました。

旧船と比べて一回り大きくなり段差も少なくなったので、用意されたスロープで問題なく乗船でき船上のスペースも十分でした。車いすの固定の方法など意見させていただいたくらいで問題ありません。

寒さや雨の問題はありますが、棧橋までの移動を考えたら船上で我慢できると思います。

強いて言えば、川の水位によって棧橋までのスロープの傾斜がきつくなると手動車いすで厳しいでしょう。



不便なところは人の助け合い精神でバリアフリーを作ればよいと思います。

●自立支援協議会

取手市では、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）第 89 条の 3 に基づき、取手市における相談支援事業をはじめとする地域における障害者への支援体制の整備について中核的な役割を果たす定期的な協議の場として自立支援協議会を設置されています。4つの部会がありそれぞれの活動に関係する事業所、団体が参加しています。

理事長の染野が児童に関する部会のリーダーとして、副理事の宮脇は地域で生活していくための部会リーダーで協議会の会長職も務めています。

1. 児童に関する部会：染野和成

先日開催された自立支援協議会も、委員としての任期も今回で2年となって最後の会合となりました。

私の所属する部会ではこの2年間で6回の見学会を実施、9か所の放課後デイサービス、各事業所の連絡会を結成する話がようやくまとまり、この1月に最初の会合が行われ、初年度の幹事役、年2回の連絡会開催時期、その他が決められました。

自立支援協議会内の児童部会、次なる目標は児童、支援学級、支援学校からなる共同体を構築することとして確認し、解散しました。

2. 地域で生活していくための部会：宮脇貞夫

障害者が高齢になっても安心して地域で暮らしていく環境作りを目指しています。

その手段をいろいろ検討しましたが、まずやらなければいけないことは、障害者が地域で安定した生活を送るための福祉サービスの充実を考えました。

そこで、下記項目を目指すことにしました。

- 特別養護老人ホームに障害者のショートステイを受け入れてもらう
- 居宅サービス等の介護保険事業所に障害福祉サービスへ参入してもらう。
その目標を達成するための手段として
- 両サービスの併設に詳しい識者のシンポジウムを開催する。
- 上記シンポジウムに多くの両サービス関係者を招聘し、講演後に意見交換会をする

●生きるプリントとは

障がいがあっても、本人のやる気とPCが使えれば商売ができることを証明するために始めた事業です。

約30年間、当時我が国随一の設備と技術を誇っていた製版会社にて、電通、博報堂などの広告会社からの依頼で一流会社のポスター等々の制作にあたっていました。その経験が生かされています。



一例です

取手市福祉政策への貢献

自立支援協議会、地域福祉計画策定委員会、福祉有償運送運営協議会、地域助け合い協議体、社会福祉協議会理事、社会福祉協議会広報編集委員、チャレンジデー実行委員会、取手市制施行50周年記念事業実行委員会、とりで障害者協働支援ネットワーク（障害者の防災、就労支援）、いきいき茨城ゆめ卓球バレー全国交流大会実行委員、共同募金配分委員会、避難所障害者対応

講師派遣

- 障害者（児）支援ボランティア講座
- 福祉有償運送・国土交通省認定運転者講習会
- 市内小学校・福祉体験授業
- 石巻・福祉送迎講習会
- 障害児スポーツ教室協力
- 卓球バレー交流会指導者派遣

ありがとう

- ボランティアさんたち 25,680円
- 匿名 30,000円
- 匿名 25,000円
- 山田さん 玉ネギをたくさん



編集後記

花粉症と共にこの季節がやってきました。年1回発行のため、掲載内容が多く、手を焼きながら紙面のレイアウトをしています。今号も、読みやすく、活動内容が分かりやすく出来たと自負しています。

編集担当 鈴木 澄利

2020年 4月 1日発行

発行所 NPO法人 活きる

発行者 染野 和成

編集者 鈴木 澄利

連絡 〒302-0027 取手市本郷5-4-21

TEL/FAX 0297-73-8361

npo_ikiru@rainbow.plala.or.jp

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~npoikiru/>

<https://www.facebook.com/npoikiru>

活動会員・賛助会員を募集しています

一緒にNPO法人活きるの活動に参加してみませんか
皆様のご参加をお待ちしています。

活動会員 個人・年会費 2,000円

団体・年会費 3,000円

賛助会員 個人・年会費 1口1,000円 1口以上

団体・年会費 1口2,000円 1口以上

（活動・賛助会員の総会議決権はありません）

振込先

・郵便振替 00190-7-778948

口座名義 「特定非営利活動法人活きる」

どちらも口座名義は「特定非営利活動法人活きる」